

五年 草原

鈴木賀代子



5年

鈴木賀代子さん

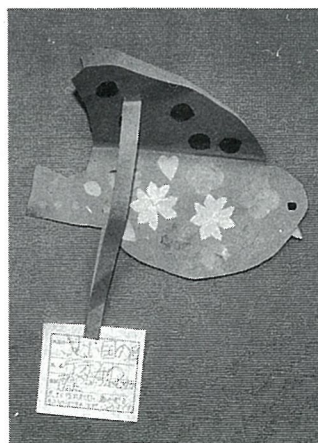
※文字の組み立て方（かんむり、たれ）に気をつけて、一字一字力強く書きました。



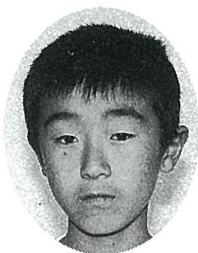
3年

行方みわさん

※さむい国の鳥をつくりました。はねのようがむずかしかったです。



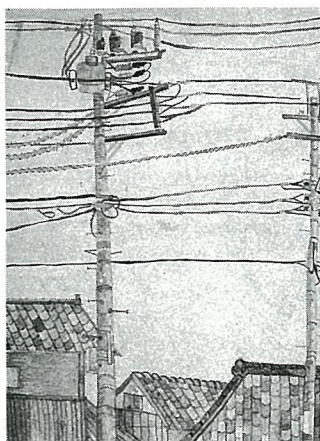
『さむい国の鳥』



6年

宇井正洋くん

※電柱のまるみをだすところと、かわら屋根をぬることがむずかしかった。



『電柱のある風景』



4年

土屋小百合さん

※『はらい』が、あまり上手に書けなかった。三画めの、バランスがむずかかった。



ひかり俳壇

布施 和代 (二又)

夏雲雀大和の土器のはにわ館

思わず縄文時代へ引込まれる。上五は「揚雲雀」としたい。

秋山 一泉 (野栄町)

毛蟲焼くうごめき逃る声のあり

業火を逃げ惑う毛虫、断末魔の声を聞いたのは詩人の心か。

大木静波子 (篠本二区)

恋瘦せて戻りし猫を膝に上ぐ

発情期にある猫が久しぶりに戻った。慈悲をかけて迎える。

椎名 静子 (二又)

這い出して毛蟲迷わず路よぎる

日常よく見かける光景を逃さず一点集中に詠み上げた。

大谷 武彦 (関)

鯉のぼり真鯉の数の増えてをり

真鯉は父、緋鯉は母そして子供の鯉、過疎地には頼もしい。

「短評」椎名しげる